

参加者感想

参加期間 2016年 2月3日 ~ 2月18日

参加されたプログラム名

カナダ モンテッソーリ幼稚園ボランティア

参加の動機

・高校生のときから、カナダのバンクーバーにあこがれていたから。
・春から教育の会社に勤めるので、外国の教育事情に触れてみたかったから。
・子供の自主性を育てる「モンテッソーリ」というプログラムに興味をもったから。
・数あるエージェントさんの中から、CEOさんを選んだのは、①現地サポートスタッフさんがいること②空港までの出迎えがあったこと③現地で日本人が1人だけの環境を提供すると約束してくださったこと④参加を迷っていたときに相談に乗ってくださった方が非常に丁寧だったことが決め手でした。

印象に残ったこと・感動したこと

幼稚園での活動が最後の日に、先生が子供たちに向かって「@@(私の名前)先生は、明日日本に帰るから、みんな先生にお礼を言って、お別れのハグをしましょう」と言ってくれました。子供たち一人ひとりが、帰り際にハグをして「thank you, teacher」と言ってくれました。子供たちが帰った後に、先生が「きっと子供たちはあなたがいなくて寂しがらわ。今までありがとう」と言ってくださり、カナダのメープルシロップとお手紙をプレゼントしてくださいました。一生忘れられない思い出になりました。

大変だったこと

モンテッソーリの幼稚園を見るのが初めてだったので、最初は戸惑いました。私の中で幼稚園は、生徒と一緒に歌を歌ったり、外で遊んだり、お絵かきをしたり、時々字の練習をしたりするイメージだったのですが、この幼稚園は異なっていました。子供たちは一人ひとり、予め決められた個人ワーク(塗り絵やパズル、文字の練習等)をこなしていくという仕組みになっていました。子供たちと一緒に自由に遊ぶイメージばかりもっていたので、「ここで自分に何が出来るか」最初のころは悩みました。しかし、先生に自分の思いを伝えて、子供たちとなるべく関わるようにすることで徐々に子供たちのサポートが出来るようになっていきました。

また、ときどき先生の英語が分からず、指示を出されても理解できないことがありました。そうしたときは先生がどんなに忙しそうでも再度質問したり、手が空いている別の先生に質問することで、疑問を解消していました。

楽しかったこと

先生にお願いして、子供たちと一緒に折り紙を折ったこと。

土日に色々な観光地へ遊びに行ったこと。

持ち物について 持って行って良かった物、or 持っていけば良かった物など

【持って行ってよかったもの】

折り紙や日本のおもちゃ・日本についての絵本・幼稚園の先生へのお土産・ホストファミリーへのお土産・日本の街や自分の家族の写真

【持っていけばよかったもの】

日本の風景の写真・・・話のネタになるので。

【不要だったもの】

日本食や日本のおかし・・・日本の味が恋しくなるかと思って少し持っていきましたが、バンクーバーでは普通のお店で日本のおかし(ハイチュウ、ポッキー等)が売ってありました。また、日本食のレストランも数え切れないほどありました。

現地での服装について 普段の服装や、活動先での服装のアドバイスなど

【気候】

冬のカナダは寒いと聞いていましたが、バンクーバーはそこまで寒くなく、日本と同じくらいの気候でした。日本の冬に着るくらいの分厚さの洋服を持っていけば十分だと思います。また、ホームステイ先の家は暖房がしっかりきいており、夜家にいても寒いと感じたことは一度もありませんでした。現地の人に聞くと、バンクーバーはカナダの中でも冬に過ごしやすいため、大変人気な都市だと言われました。ただ、冬は雨が多い(半分以上の日は雨が曇りでした)ので、傘はもちろんですが、防水加工のかばんや、ぬれても困らない洋服を持っていくことをおすすめします。...

【活動時】

私の派遣された幼稚園は、グラウンドもなければ外で遊ぶ時間ありませんでした。ビルの1階部分をかりて、広い教室が1つあり、全ての生徒と先生の活動はその教室内で行われていました。外で遊べるようにと洋服を準備

して行きましたが、結局は不要でした。ただ、子供用の小さいすに座ったり、必要に応じてじゅうたんの上に座ったりするので、女性の方はスカートはやめたほうが良いかと思います。また、絵の具の時間があつたのですが、近くでお世話をしていると洋服に絵の具が付いたこともあつたので、汚れても気にならない服を持っていくことをオススメします。

現地の物価 食品・日用品・外食・交通費etc・旅行に行かれた方はその費用など

現地での費用は一日どれくらい必要でしたか？

【交通費】

バンクーバーでは交通費を非常に安く抑えることができました。バンクーバーの交通料金はゾーン制という制度が採用されており、同じゾーンの中なら、スカイリンク社という交通会社が運営するバス・スカイトレイン・カナダライン・フェリー等の乗り物に、90分以内の乗車(乗り換えも含む)が全て3ドル以下(正確には忘れましたが、確か2.5ドルくらい)で乗り放題でした。また、土日はゾーンの区切りがなくなり、90分以内ならどのゾーンの乗り物に乗っても同一料金でした。コンパスカードと呼ばれる、乗り物のICカードがあるのですが、それを使うとさらに割引があるので、到着したら早速購入することを強くオススメします。駅の近くに自動の購入機・チャージ機があり、日本語も対応してくれるので、心配無用です。この制度自体がまだ新しく、切り替わってすぐだったようなので、詳細が書かれていないガイドマップもあるかもしれませんので、現地で確認してください。この制度のおかげで、バンクーバーで有名な名所のほとんどには行くことが出来ました。

帰国の際には空港までタクシーを利用しましたが、20分くらい乗っても2000円以下でしたが、チップの支払いもありました。

【食費・その他生活費】

私はアメリカに半年滞在したことがあつたのですが、お店で売られている商品や、人気のチェーン店はアメリカのものとかかなり似ていました。ただ、値段はアメリカよりもカナダの方が高かったです。水や飲み物のペットボトルは、日本の定価くらいのものが多かったです。また、飲食店はお店のランクにより様々ですが、日本円で1000円～2000円あれば、十分なボリュームで感じの良いレストランで夕食を食べることが出来ました。嬉しかったのは、寿司ロールが1000円程度で食べれたことです。また、バンクーバーのダウンタウンには、スターバックスをはじめとする様々なチェーン店のカフェがありましたが、"Tim Hoten"と呼ばれるドーナツのチェーン店はとても安くて人気で、気軽に時間つぶしが出来るのでお勧めでした。コーヒーのレギュラーサイズでも2ドル以下、ドーナツも1ド

ル程度なので、気軽に入れます♪

【旅行】

ダウンタウンがバンクーバーで一番栄えている街なのですが、そこからバスでほとんどの観光地に行くことができました。スタンレーパークという水族館のある大きな森林公園、グラウスマウンテンという有名な山、キャピラノブリッジと呼ばれる大きなつり橋、カナダプレイスというカナダの象徴のようなモニュメントがある街、海洋博物館等、コンパスカードと便利なゾーン制のおかげで、本当にたくさんの観光地に、交通費や交通手段の心配をすることなく遊びに行けました。交通費は、安くて往復で5ドル、高くても10ドル程度で済みました。入館料は、だいたい1000円程度でしたが、グラウスマウンテンについては少々高めで、全部で6000円くらいかかりました。また、学生の方は学割があるお店もあるので、自分が学生であることを伝えたほうがいいと思います。また、ほとんどのお店ではクレジットカードを使うことが出来、500円以下のものでもカードで支払うことも普通でした。ただ、アウトドアの観光スポットは時々クレジットカードが使えないので現金をたっぷり持っておくことをおすすめします。

コミュニケーション手段(言葉の問題など)について

幼稚園のコミュニケーションでは、子供の英語や会話が聞き取りづらかったのが苦労したところでした。日本でも小さい子供は、まだ文法が整っていない言葉を使ったり、単語を間違えて覚えてしまっていたりすると思いますが、それは現地の子供も一緒なので、英語に自信がなくても、子供の英語が分からなくても、そこまで気にする必要はないのではないかと思います。ある程度「先生らしく」「必要に応じてやりすごす」ことも必要なのだと途中からわかりました。また、子供たちは新しいことが大好きで、素直でした。その上で、自分が先生の一人であることを意識して、怒る必要があるときは現地の先生と相談して注意をしたりもしました。幼稚園で先生が子供に向けて話す英語はとてもシンプルでゆっくりなので、英語の勉強にはとても最適でした。また、現地の方ははっきり言わないと分からないという文化なので、自分が幼稚園でやりたいこと等をどんどん発信していくのが大事だと感じました。

ステイ先の情報・感想 ホームステイ

ホストファミリーはスリランカから20年前に移民してきた家族で、ホストシスター・ホストブラザー・ホストペアレンツとホストグランドファザーがいました。みんな忙しい家庭で、朝ごはんはもちろんですが、夜ご飯さえ家族全員で食べることも一度もありませんでした。また、ホストマザーは仕事のために朝4時に起きる生活をしているため、夜8

時ごろ家に帰宅すると寝ていることもよくありました。ホームステイもベテランで、今までに30人近くの日本人を受け入れてきたと言っていました。そのため、私が日本のことを説明してもほとんどの基本情報は知っていました。ホストファミリーは「各々が忙しい生活を送っているため話をする暇がない」といった感じで、なかなかコミュニケーションをとるのが難しかったのですが、自分から積極的に話しかけるようにしました。現地の方は、良くも悪くもストレートなので、時々表現がきつく感じて悲しい思いをしたこともありましたが、それには悪意や他意はないことが徐々に分かってきました。話しかけても「tired」と言ってすぐに部屋に帰ってしまったり、興味なさそうな反応をされたこともありましたが、それはこちらに敵意を感じている訳ではなく、悪気も全くないんだと気づきました。これに気づくまでは、不安な思いや寂しい思いもしましたが、全く気にする必要はないんだと分かってから徐々にコミュニケーションが楽しくなりました。また、何かについて叱らたり注意されても、怒っているのはそのときだけなので、そのときにきちんと謝れば、後々まで気にすることは不要でした。日本人と違って、かなりストレートに言う代わりに、過去のことは綺麗に忘れてくれているので、落ち込む必要はないと思います。「この間はごめんね」等と過去のことについて言っても、相手からしたらもう過ぎ去ったことのように扱われたこともありました。また、気になることは現地のサポートスタッフの方に相談させていただき、とても助かりました。

派遣(ボランティア)先について 　どこでどんな活動をしましたか

毎日8時45分に出勤し、3時までボランティアをしました。幼稚園は、午前クラスと午後クラスに分かれており、年長さんに当たる子達だけは、午前・午後とも連続して幼稚園に滞在していました。そのため、一緒にお昼ご飯を食べたのは年長さんの子達だけで、ご飯を食べている間に、午後クラスの子達がやってきたりしていました。人数規模も小さく、午前・午後それぞれ20名ずつくらいのお子さんがいました。上述のとおり、幼稚園で子供たちは自分のワークをこなしていくので、子供たちが出来ないときに手伝ったり、集中力が途切れてしまった子に声かけをしていました。そのため子供たちと一緒に遊ぶ時間がとれず悩みましたが、先生方に「自分ももっと子供たちとかかわりたい」「日本のことを伝えたい」と言うと、毎日折り紙を一人ずつに(ワークの合間に)教える時間を設けてくださいました。また、子供たちとかかわりも、先生方をお願いして、一緒に絵本を読ませてもらったり、ワークが上手に出来ない子達の指導を積極的に引き受けました。また、子供たちは人見知りでなついてくれなかったのですが、常に笑顔でいるよう心がけていました。先生方にお聞きしたところ、幼稚園は「学ぶ場」と位置づけられ、「遊ぶのは家でやること。ここは子供の自立性を育てる場だ」といわれました。

ボランティアのために事前に準備していったこと・持っていったもの など

【準備していったこと】

・折り紙と、英語説明入りの折り紙の折り方説明書(100円均一などで売っていました)

・日本の家族や学校の写真、日本の幼稚園全体像について下調べ

・昔ながらの日本の遊びや、今子供に人気のあることの下調べ

【準備していきべきだったこと】

・先生から突然「子供たちのために日本の歌を歌ってほしい」といわれ、とっさに出てこなかったので、準備しておけばよかったなとおもいました。

今後参加される方へのアドバイス

【幼稚園ボランティア】

・相手から与えられた仕事をこなすだけでなく、「自分が何をしたいか」を発信していくことが非常に大切だと思います。

・先生方もお忙しいので、なかなかこちらに構ってもらえないかもしれませんが、自分から仕事をもらいに行くことが大切だと思います。

【ホームステイ】

・向こうの方は、日本人がはっきり言わないことをはっきり言いますが、その後まで尾をひくことはないなので、気を強く持って常に笑顔でホストファミリーに話しかけることが大切だと思います。

・ホストファミリーによって、家族内のかかわり方が様々なので、戸惑うこともあるかもしれませんが、家族の状況を良く見て接することが大切だと思います。基本的にカナダの方はおおらかで親日の方が多いそうなので、自信を持って接したら大丈夫だと思います。

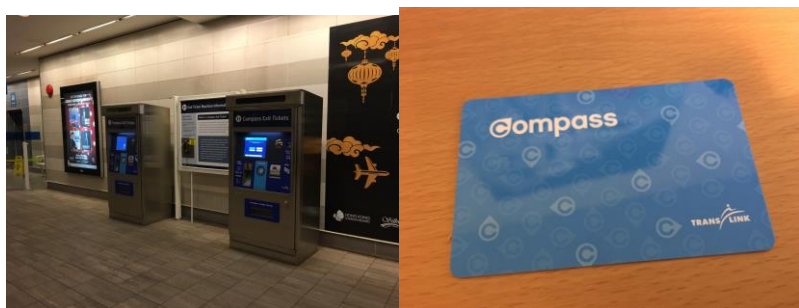
【街歩き】

・全ての道に名前がついており、信号付近の看板に道の名前が示されているため、地図を見ながら歩くときは道の名前をチェックしながら歩くことをオススメします。また、地図を持って立ち止まっていると、親切な方が声をかけてくださったことも多々ありました。治安もいいので、そこまで警戒しすぎず、人に道を尋ねても大丈夫だと思います。

・信号機が日本と違って色の違いによる指示ではないので、予め調べることをオススメします。

その他、自由にご記入ください 写真大歓迎！！

今回参加させていただいたプログラムは、2週間ととても短く、また大学卒業直前だったため、参加するべきか本当に悩みました。しかし今では、行って良かったと心から思っています。直前の参加申し込みにも関わらず、こちらのわがまを丁寧に聞いてくれた、カナダ留学担当の池田さんや、現地サポートスタッフのみなさんには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。最初から最後まで、こちらのことを丁寧に気遣ってくださり、いつもの確かなサポートをしてくださり本当に助かりました。迷ってる方は、是非参加してほしいです。このプログラムを通して、日本では気づくことの出来なかった「新たな自分」と出会い、外国の教育について見聞を広げることが出来、自分の将来への可能性が広がったように思っています。サポートしてくださったみなさん、本当にありがとうございました。



↑【左】コンパスカードのチャージ機、発売機【右】コンパスカード(トランスリンク社)



↑ダウンタウン



↑【左・真ん中】幼稚園の教室の様子【右】モンテッソーリ教育の道具(通称マテリアル)の一部



↑キャピラノブリッジ

女性 (ご参加時年齢)20歳代
